

令和6年度 事業報告

自 令和6年4月 1日
至 令和7年3月31日

I. 会員の状況

令和7年3月31日現在の正会員数 31社（令和6年3月31日31社）
令和7年3月31日現在の賛助会員数 46社（令和6年3月31日44社）

II. 会議

1. 総会

◇第13回通常総会 令和6年6月6日 <場所：(一社)日本橋梁建設協会>

【出席31社、書面表決提出によるみなし出席3社】

第1号議案 令和5年度事業報告

第2号議案 令和5年度決算報告

◇臨時総会 令和7年1月30日 <場所：(一社)日本橋梁建設協会>

【出席31社、書面表決)提出によるみなし出席31社】

議案 令和7年度から令和9年度橋建協会費について

2. 理事会

◇第84回理事会 令和6年4月25日 <場所：(一社)日本橋梁建設協会>

第1号議案 第13回通常総会開催(案)について

第2号議案 第13回通常総会議案書(案)について

第3号議案 意見交換会(案)について

◇第85回理事会 令和6年6月6日 <場所：(一社)日本橋梁建設協会>

第1号議案 橋建協60周年記念行事について

第2号議案 次期参議院銀選挙候補者の推薦について

◇第86回理事会 令和6年7月25日 <場所：(一社)日本橋梁建設協会>

第1号議案 令和7年度から令和9年度会費改定検討WGの設置について

第2号議案 電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規定(案)について

◇第87回理事会 令和6年9月26日 <場所：(一社)日本橋梁建設協会>

審議案件なし

◇第88回理事会 令和6年11月27日 <場所：(一社)日本橋梁建設協会>

第1号議案 令和7年度から令和9年度橋建協会費について

第2号議案 臨時総会の開催について

第3号議案 令和7年度新年交礼会次第について

第4号議案 新年交礼会における60周年記念行事報告及び功労者表彰について

◇第89回理事会 令和7年1月30日 <場所：(一社)日本橋梁建設協会>

第1号議案 令和7年度行事予定(案)について

第2号議案 令和7年度事務局体制(案)について

◇第90回理事会 令和7年3月27日 <場所：(一社)日本橋梁建設協会>

第1号議案 令和7年度事業計画(案)および令和7年度収支予算(案)について

第2号議案 令和6年度臨時総会(第2回)の開催について

第3号議案 令和6年度意見交換会報告について

第4号議案 橋建協職員就業規則改定(案)について

第5号議案 令和7年度海外調査団の派遣について

III. 常設委員会の活動報告

1. 企画委員会

企画委員会は協会事業計画の企画立案や組織運営全般を担い、各委員会の横断的な課題や現状必要な課題への対応を行っているところではあるが、令和6年度は鋼材費・人件費上昇に伴う発注案件数の抑制が昨年以上で協会発足史上最低の受注重量となったため、今後状況を踏まえて対応していく必要がある。

(1) 意見交換会(幹部級)

各委員会から示された課題や意見等を協議した結果、令和6年度の重点活動テーマは、1. 鋼橋事業の継承と進化(事業量の確保と国土強靱化への貢献)、2. 現場安全対策の推進(安全性の向上)、3. 鋼橋DXの推進(生産性の向上)、4. 既設鋼橋の強靱化・健全化の推進(耐震性向上と事業環境整備) 5. 更なる海外展開の推進(各種リスク管理の下での実施)とし意見交換会の主題とした。

国土交通省本省との意見交換は、山本道路局長を始めとした道路局、小笠原海外プロジェクト審議官を含めた総合政策局海外プロジェクト推進課、廣瀬技監・沓掛技術審議官を含めた大臣官房技術調査課とそれぞれ7月に行った。

全国整備局等10局との幹部意見交換会は9月から11月までの間対面にて、協会のおかれている状況説明および要望を行った。協会からの要望である、「ピアレス橋梁」「オフセット橋梁」「アクロス橋梁」「床版取換時鋼床版化」の採用や「鋼橋データ連携の更なる推進」への前向きな発言など多数の有益なご意見をいただいた。

全国整備局等との意見交換には、47都道府県および20政令指定都市が参加、「中長期の発注計画」「長大橋プロジェクトの推進」「週休二日達成に向けた取組み」「墜落災害撲滅に向けた取組み」について口頭もしくは書面で回答をいただいた。

1月には意見交換会の内容について、道路局、大臣官房技術調査課へ中間報告を行い、今後についてのご意見等をいただいた。

高速道路会社幹部意見交換会はNEXCO3社および首都高速、阪神高速の5社に対し10月から2月までの間対面にて行い、実務者意見交換と要望内容を連動させ、「途中交代技術者の実績認定書の運用」「書類と検査の簡素化」「保全工事における足場費用」「詳細設計実施時の問題点」などについて議論した。

高速会社からは今後の事業概要紹介や働き方改革対応実施後のアンケートなどの紹介があった。

(2) 政府等への要望活用

予算・税制に関する要望書、防災・減災、国土強靱化対策の推進及び公共工物品質確保に関する要望書を議員連盟等に提出した。

※今年度は税制に関する要望についての要望を初めて記載

(3) 委員会、WG 活動など

1) 表彰委員会（4回実施）

① 令和6年度表彰

書類選考、協議の結果、伊藤学賞は野上邦栄氏、技術功労賞は山田博文氏と瀬田 真氏を選定した。奨励賞は書類選考と個別プレゼンテーションを実施し、設計部門6名、製作部門1名、工事部門3名と今回初めて業務部門1名を選定した。受賞者には10月4日（金）銀座ブロッサムにて表彰を行った。

② 60周年記念表彰

今年度は60周年記念イベントの一環として2014年4月から2023年3月まで皆勤で協会活動された方を功労表彰することになり、選定を行った。地区事務所、委員会等より110名が受賞し、1月10日（金）の新年交礼会において代表者が表彰された。

2) 総務部会（2回実施）

橋建協職員旅費規程等の改訂について検討し、修正案が企画委員会にて審議・承認された。

3) 60周年記念特別WG

今年度は協会発足60周年となるため、特別WGを組織し行事等を行った。主な事業等は次の通り。

- ・会長と若手との座談会（虹橋に掲載）
- ・石川県 犀川橋 橋磨きイベント・百寿祭参加、内容を SNS にて公表、記念ジグソーパズル作成
- ・阪神高速道路 港大橋50周年とコラボレーション（見学会協力、写真・絵画コンテスト支援）
- ・首都高速道路 横浜ベイブリッジ・鶴見つばさ橋イベント協力、記念ジグソーパズル作成
- ・60周年記念表彰

4) 重点活動テーマ検討WG

前年度の結果概要を踏まえ重点活動テーマを取り纏め、企画委員会および理事会にて承認された。

5) 鉄道橋WG

JRTTと災害対応に関する意見交換等を実施し、12月に一部地域で災害協定を締結した。また、DXについての意見交換も実施した。

6) 会費改訂WG

来年度からの会費を実績などもとに検討し、企画委員会および理事会にて承認された。

7) その他

- ・国土交通省より品確法運用指針についての意見照会があり、とりまとめ提出
- ・日本道路協会に電子図書利用マニュアルについての意見を提出
- ・本州四国連絡橋株式会社と実務者意見交換を2回実施、幹部級について実施すべく調整中

2. 広報委員会

令和6年度は「鋼橋の積極的な採用促進」を目標に掲げ、発注者に対し単に事業量確保を要望するだけでなく、災害に強い橋として「ピアレス橋梁」と「オフセット橋梁」、交通渋滞を解消しCO2削減効

果も高い「アクロス橋梁」の採用を提案したところ共感を得られた。また、NEXCO 工事における受発注者双方の働き方改革を推進するため、受発注者双方から人選し、「提出書類と検査の簡略化（構造物施工管理要領の改定）」と「詳細設計における費用と工期等の諸問題」について改善していく WG を立ち上げ協議していくことになった。更に、担い手確保のためにも、これまでの常識にとらわれず（パラダイムシフト）、「夜間工事を削減し昼間施工を要望」したところ、以前より前向きな反応が得られた。

(1) 意見交換会（実務者） 直轄8局、NEXCO東と西、首都高速、阪神高速、・地公体

- ・ 直轄実務者意見交換会については、今年度からは地区特有の困りごとを中心に地区事務所が主体となって企画推進し、各地整を担当する本部委員は地区幹事を支援する体制で実施した。主に、入札契約制度や受注後の課題の他、働き方改革等の推進に関し意見交換した。
- ・ NEXCO 西との実務者意見交換会では、保全委員会と技術委員会と協力し、「提出書類と検査の簡素化」と「詳細設計における費用と工期等の諸問題」について改善していく WG を受発注者双方から人選して協議することができた。今後、NEXCO 東や中にも展開していく。
- ・ 地公体との意見交換会（群馬県、静岡県、石川県、熊本県）を実施。

(2) 鋼橋の積極的な採用促進

- ・ 近年多発する豪雨による橋の流出対策として“ピアレス”橋梁（河川内橋脚数を減らした橋梁）の採用を提案するためパンフを作成。令和7年度から直轄河川部や各県への採用促進活動を実施予定。アクロス橋梁、オフセット橋梁についても、令和7年度意見交換会で配布できるようパンフ作成中。
- ・ 令和7年度の具体的要望として、各地整から提示された中長期計画の中から「早期発注を要望する路線」「早期事業化を期待する路線」「技術伝承・進化のために必要なビッグプロジェクト」を地区毎に選定しまとめた。

(3) WGなど委員会活動（広報委員会主幹とする活動）

○戦略広報WG

- ・ 若手社員 14 社 14 名により、鋼橋業界の広報活動を継続中。小学生、中学生、高校生、高専生、大学生を対象に活動を行った。
- ・ 出前授業を Bridge Workshop（通称：ぶりわ）と名称をつけ過去最多の 4 校で開催した。現場見学会支援は、construction site tour（通称：こんつあ）と名称をつけ、2 現場で実施を予定。
- ・ その他、SNS 運用やイベント時に使用するグッズ作成など引き続き行っていく。

○ブリッジトーク

- ・ 第1回 令和6年5月29日 53名参加
講師 関東地方整備局 野坂道路部長様 「関東地整における道路事業の未来」
- ・ 第2回 令和7年1月24日 37名参加 「賛助会員会社と若手技術者との融合」
シバタ工業、田中亜鉛鍍金、ニチゾウテック、日本ペイント
- ・ 第3回令和7年3月18日 35名参加
講師 山崎エリナ様 「写真家からみた現場の魅力」

○虹橋WG

- ・ 7月に虹橋88号発刊、特集は1:「8」にまつわる橋、2:この橋をみよ！九州事務所推薦。

○業界セミナー

- ・ 関連学部専攻中の学生へ、鋼橋業界に就職するためのリクルート支援を含めた宣伝活動実施。
対面実施：法政大学、日本大学理工学部、九州建設フォーラム

○橋梁年鑑WG

- ・令和7年度橋梁年鑑発行のため、グラビア選定やデータチェックを実施。

(4) 部会活動

○製作積算部会

- ・鋼橋製作（新設）積算に係る調査・研究・提案及び各地区事務所の積算要望に対する対応。
- ・製作工数等実態調査に基づく直接労務費及び製作工数等の改定へ向けての提案。

○現場施工積算部会

- ・鋼橋架設（新設）積算に係る調査・研究・歩掛策定および地区事務所への対応。
- ・橋梁架設用機材損料に係る調査・解析・機械経費委員会対応。・積算講習会講師対応
- ・採算が厳しい歩道橋や鋼製橋脚工事の積算方法等の改善対応。（間接費積算部会と協働）

○間接費積算部会

- ・現場間接費に係る調査・研究・提案及び地区事務所への対応。
- ・現場諸経費率の維持・向上の為、橋建協会員に「間接工事費等諸経費動向調査説明会」の実施。
- ・採算が厳しい歩道橋や鋼製橋脚工事の積算方法等の改善対応。（現場施工積算部会と協働）

○契約制度部会

- ・各発注者との意見交換会用として、客先別に入札制度を調査分析、要望案等を作成。
- ・作成資料は下記記載の通り
- ①発注見通し概要記載内容比較、②設計成果品の閲覧可否および閲覧範囲、③地整別インターネット掲載の取り組み、④鋼橋上部発注案件日数比較表、⑤質問回答の比較表作成、⑥提案ヒアリング有無比較、⑦補正予算活用実績、⑧積算情報 単価歩掛公表状況資料、⑨地整別の工事範囲、⑩地整別の競争参加資格要件、⑪地整別の技術者要件、⑫地整別の技術申請資料一覧、⑬担当技術者としての実務経験を同等評価、⑭地整別の技術提案課題、⑮地整別のオーバースペック記載例、⑯技術提案SI型対象希望一覧、⑰競争参加資格に係る現場技術者の申請時での提出不要、⑱試行工事一覧（一括審査/概略発注/企業能力/段階選抜）、⑲技術者不足対策試行工事一覧、⑳監理技術者育成交代モデルまとめ、㉑R5 年度一括審査案件まとめ、㉒各地整における段階選抜採用実績、㉓中部地整別段階選抜分析、㉔鋼橋上部工事における不調工事、㉕ECI 案件取りまとめ（鋼橋上部）、㉖企業能力評価型発注実績一覧、㉗週休二日実施後アンケート、㉘コリズに関する課題纏め、㉙担い手の確保（高速道路会社取り組み）、㉚R5 年度直轄工事公告案件一覧

(5) 地区事務所活動

- 北海道事務所：開発局幹部（北海道、札幌市参加）・東日本高速北海道支社実務者・開発局実務者意見交換会実施。開発局の橋梁担当者会議への技術講習の講師派遣や各大学・高専（計6校）への出前講座を開催。北海道土木技術会主催の土木の日パネル展やNEXCO 東北北海道支社の安全衛生協議会主催の安全パトロール等への参加。本州北海道架橋を考える会の30周年記念講演会の後援。「コンストラクション甲子園」へ今年度より初めて協賛。
- 東北事務所：東北地整（局長・実務者）における意見交換会を実施。EE東北ブース出展し鋼橋の魅力についてPR。地方自治体、各大学出前講座・技術講習会・高校生橋梁模型発表会参加。青少年のための科学の祭典 in 東京参加、学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2024参加。事務所総会の開催。東北地整 総合防災訓練への参加。東北地方工事安全施工推進大会（SAFETY2024）への参加。東北地整管内現場 安全パトロールの実施。応急組立橋架設点検見学会対応。岩手県災害協定締結。
- 関東事務所：関東地整・東日本高速、首都高速における幹部及び実務者クラス意見交換会を実施、

群馬県との意見交換会を実施。地方自治体や各大学・高専・工業高校・建コン等への出前講座・技術講習会・現場見学会・工場見学会を実施。横須賀工業高校からリクルート支援の相談を受け、本部経由会員各社へ求人依頼を発信。東日本高速関東支社災害対策連絡会に災害対策本部とともに参加。「東京都 橋と土木展」、「横浜ベイブリッジ開通35周年 鶴見つばさ橋開通30周年記念イベント」に出展し一般の方へ鋼橋の魅力をPR。

- 北陸事務所：北陸地整局長級意見交換会、犀川大橋橋磨き・百寿祭、出前講座（富山大学・長岡技科大・長岡高専）、技術講習会（新潟県・富山県）、橋梁技術講演会（建コン北陸と共催）、北陸道路研究会、石川県へ要望書提出、建設技術報告会、能登震災現場調査
- 中部事務所：中部地整、中日本高速、名古屋高速、静岡県、三重県意見交換会実施。技術講習会（愛知県・静岡県、名古屋市等）、出前講座（岐阜大・豊田高専）実施。「建設技術フェア 2024 in 中部」に出展し、大学生や高校生に対し鋼橋の魅力をPR。
- 近畿事務所：近畿地整・西日本高速・阪神高速の幹部および実務者かつ本四高速の実務者にて意見交換会を実施、建設技術展近畿・ふれあい土木・本四模型コンテストへ協会ブースを出展し鋼橋の魅力についてPR、技術講習会・出前講座・工場見学（近畿地整）・現場見学（建コン近畿）を実施。橋梁技術発表会では港大橋50周年に関し阪神高速より特別公演。ブリッジトーク大阪では賛助会員との交流会を実施。
- 中国事務所：中国地整・広島県意見交換会実施、「建設技術フォーラム in ちゅうごく」リアル展示会参加、山口大出前講座実施、技術講習会講師派遣（中国4県（山口県除く）、建コン中国支部）、虹橋・橋梁年鑑配布による鋼橋普及・改善活動。
- 四国事務所：四国地整意見交換会・技術交流会開催。
徳島大学・愛媛大学出前講座、建コン協・PC建協との合同技術講習会実施。香川県意見交換会。香川県との災害協定について締結に向けた協議を実施。
- 九州事務所：九州地整（局長級・実務者級）・NEXCO西-九州支社と意見交換会の実施、地方自治体への技術講習会や各大学への出前講座の実施、橋梁三力会の活動を継続し講習会を開催、九州建設技術フォーラム・インフラメンテナンス国民会議。
- 沖縄事務所：沖縄総合事務局、沖縄県意見交換会（幹部）、局・県・コンサル対象の技術講習会実施。
琉球大学出前講座にて若い世代に鋼橋へ理解求める。鋼製橋脚不調対策を沖縄と意見交換要望対応。
沖縄しまたて協会開催の直轄講習会への講師派遣を通じて鋼橋のPR。

3. 技術委員会

発注者、国総研、土研、大学、関連学協会との共同研究・委託研究、意見交換等を通して、鋼橋の市場拡大、多岐にわたる技術的課題の解決に取り組んだ。以下に、技術委員会共通、各小委員会での活動内容を報告する。

(1) 技術委員会共通

次期道路橋示方書改定に向けた活動、発注者や大学への講師、委員の派遣、建設コンサルタントや日本鉄鋼連盟等の関連団体との意見交換会を開催し、鋼橋の市場拡大に努めた。また、国土交通省に関しては、BIM/CIM推進委員会の各WGへ参加し、鋼橋の自動設計や生産情報の関係システム連携を推進した。また、NEXCO各社からの各種依頼業務の対応は継続して実施している。以下に主な活動内容を示す。

- ① 設計・施工の道示改定及び各便覧改定の委員会、WGへの参画

- ② 国交省BIM/CIMやi-Construction関連会議への参画
 - ③ 大学・高専(出前講座)、発注者の技術研修会への講師派遣
 - ④ 橋梁技術発表会の実行委員会としての企画運営及び講演
 - ⑤ 発注者要請に応じた、委員の現地派遣(豪雨被災橋梁等)や各種要領の意見照会対応
- 技術委員会からの発信情報を下記に示す。

◆書籍：合成桁の設計例と解説(改訂版) 令和6年6月

Ⅰ形鋼格子床版設計・施工の手引き(改訂第2版) 令和6年8月

◆論文等：土木学会年講6編(設計2、床版4)、床版シンポジウム(床版1)

(2) 設計小委員会

次期道示改定に向けた性能評価・診断小委員会や品質保証小委員会の活動が佳境を迎え、各WGで具体的な試算や検討を行った。また、それに関連する国総研、土研等との共同研究にも多数参画し活動を続けている。その他、橋建協テキスト類の改訂作業を進めるとともに、名高速標準図の改定やNEXCOとの意見交換会にも参画した。以下に主な活動内容を示す。

- ① 性能評価・診断小委員会および品質保証小委員会各WGへの参画(日本道路協会)
- ② 異種材料を活用した鋼橋の合理的な性能回復技術の開発に関する共同研究への参画(土研、PC建協、鋼構造協会)
- ③ 道路橋の立体挙動を考慮した設計法に関する共同研究への参画(土研、国総研、建コン、PC建協、NEXCO総研)
- ④ 道路橋の耐久性能の信頼性評価に関する共同研究(土研、国総研、PC建協、鉄連)
- ⑤ 鋼構造物架設設計施工指針改訂WGへの参画(土木学会)
- ⑥ 「合成桁の設計例と解説」、「鋼道路橋計画の手引き」の改訂作業
- ⑦ BIM/CIM推進委員会、活用促進WGへの参画(技術調査課・国総研、建コン協、JACIC)
- ⑧ 名古屋高速道路公社の標準図改定への参画(名高速)
- ⑨ NEXCOとの意見交換会(NEXCO)
- ⑩ 阪神高速道路 鋼構造物検討委員会への参画(阪神高速、学識者)

(3) 製作小委員会

製作部会では、SBHS700の溶接性確認試験や遠隔臨場検査の適用拡大に向け昨年度に作成した工場製作における遠隔臨場のガイドライン案の更新などを行った。またミル3社に対応したDXミルシートの抽出ソフトが完成し、その抽出ソフトの活用方法を会員会社へ説明し、DXミルシートの普及を推進した。耐候性鋼橋部会では、耐候性鋼橋の経年調査を行い、技術的課題の整理を行った。防食部会も各種防食仕様の暴露試験体の経年調査を行い、その適用性などについて検討した。以下に主な活動内容を示す。

- ① SBHS700の溶接性確認試験(鉄連と共同検討)
- ② 鋼橋の製作工場における遠隔臨場に関するガイドライン(案)の更新
- ③ DXミルシートの推進
- ④ 耐候性の点検手法および維持管理に関する調査・研究(琉球大学、国総研との共同研究)
- ⑤ 耐候性鋼材の腐食減耗量予測手法や評価方法の国際基準化(ステンレス協会、鉄連他)
- ⑥ 九州・山口地区における耐候性鋼橋の調査・研究分科会への参画(九州橋梁・構造工学研究会)
- ⑦ 3Dプリンターを用いたさびゲージの検討・試作
- ⑧ 塗装や溶射などの暴露試験による防食技術に関する調査・研究
- ⑨ 日本道路協会の性能評価・診断小委員会および品質保証小委員会への参画

⑩ 沖縄地区鋼橋防食マニュアル検討委員会への参画

(4) 架設小委員会

令和5年に発生した清水立体の事故を踏まえ、道路橋施工における安全性向上を目的として、道路橋施工便覧の改定方針を土木研究所と協力して進めている。また、土木学会が主導する「鋼構造架設設計施工指針」の改定作業に参画し、本年度に同指針の発刊を実現した。一般的には、架設工事に携わる技術者および技能者の育成・確保を促進し、安全な施工環境を整備するため、以下の活動を展開している。

- ① 建設マスターおよび建設ジュニアマスターの応募推進
- ② 橋梁特殊工の就労者調査の継続実施
- ③ コンサル技術交流促進WG架設部会現地研修会の実施（建コン協）
- ④ 工事現場業務の効率化推進WG会議への参画（中部地整・中国地整）
- ⑤ DX推進特別委員会 架設WGへの参画
- ⑥ 鋼構造架設設計施工指針改訂委員会への参画（土木学会）
- ⑦ 「鋼道路橋計画の手引き」の改訂作業
- ⑧ 施工便覧改訂WG 架設SWG参画（土研）
- ⑨ NEXCO実務者意見交換会(NEXCO)

(5) 床版小委員会

R C床版、合成床版、鋼床版のさらなる品質向上、および直面する課題である、合成床版の性能評価と維持管理手法、床版取替え、鋼床版の疲労対策等に関して、官学共同で調査研究を行った。コンクリート系床版の劣化状況を把握し検討するための調査体制を拡張し調査を開始。劣化メカニズムや対策について、橋梁技術発表会で対外発表を行った。床版の延命化に着目し床版防水層について調査を開始した。

- ① 日本道路協会对応（道路橋床版防水便覧改定、道路橋示方書・施工便覧改定）
- ② 合成床版の性能評価法の研究
- ③ 道路橋床版の凍害調査
- ④ コンクリート系床版の損傷状況調査検討
- ⑤ 「I形鋼格子床版設計・施工の手引き」の改訂
- ⑥ 「PC床版施工の手引き（プレキャストPC床版編）」の改訂
- ⑦ 床版取替え工法の研究
- ⑧ 合成床版およびP C床版の施工実績調査とまとめ
- ⑨ 床版防水工施工の実態調査
- ⑩ 岐阜大学ME（メンテナンスエキスパート）養成講座の講師対応
- ⑪ 取替え鋼床版の主桁接合方法・横リブ構造の検討（法政大）
- ⑫ 垂直補剛材上端部の疲労強度向上策の検討（法政大）
- ⑬ 開断面リブのスリット形状改良に関する検討（関西大）
- ⑭ 縦ビードの疲労寿命の検討（法政大）
- ⑮ 海外鋼床版の調査検討

(6) D X推進特別小委員会

令和5年度に設置したデータ連携活用検討WGでの活動を継続し、今年度は鋼橋データ連携試行工事を遂行することができた。この取り組みは国交省のインフラDX大賞優秀賞を受賞した。その他、国交省のBIM/CIM推進委員会へ参画し、ICTを活用した鋼橋事業および協会活動の進化

を提案・推進した。以下に、主な活動内容を示す。

- ① 「i-Bridge 適用工事制度」の運用
- ② 国交省のBIM/CIM推進委員会への参画
- ③ 鋼橋のデータ連携実装に向けた共同開発
- ④ DX ミルシート（電子ミルシート）の活用に向けた抽出ソフトの開発
- ⑤ 鋼橋の製作工場における遠隔臨場に関するガイドライン（案）の推進
- ⑥ 作業員の高度モニタリングシステム「Safe-Tracker」のアプリ更新
- ⑦ 床版施工のDX関連技術の調査
- ⑧ 災害時の鋼橋の点検を効率化するシステム「B-map」の試行
- ⑨ 講習会への講師派遣、新聞・雑誌への投稿

4. 保全委員会

(1) 事業の重点課題

発注者との意見交換会では、昨年同様の発注時の条件明示に関する要望に加えて、傷んだコンクリート系床版から軽量の鋼床版へ取替することで、床版機能の回復のみならず、下部工も含めた橋梁全体系の耐震性能向上に資する可能性があることから、鋼床版採用を比較検討に入れるよう要望した。

また、受発注者双方の困りごとを解決しようという目的で一昨年度から開始した高速道路会社との「対話の会」について、今年度はNEXCOに加えて、本四高速、阪神高速においても開催した。

(2) 具体の活動報告

1) 保全工事の環境整備

保全工事が各社にとって魅力ある工事となるために開催している発注者との対話の会については、昨年度までのNEXCOに加えて、今年度は本四高速、阪神高速とも行った。具体的には、受発注者それぞれの取組の紹介、適切な設計期間の設定、公告時の質疑数の削減、長大橋の維持管理・耐震補強時の施工方法などについて協議した。

また、働き方改革については保全工事特有の問題とその解決策についても議論し、働き方改革特別委員会と連携し活動した。

2) 保全勉強会・見学会

10年間継続している保全工事事例勉強会（保全合同部会）を引き続き開催した。また、特殊橋梁の維持管理の現状を見学し、潜在的なニーズを把握すると共に、道路管理者との意思疎通を図ることを目的に、見学会・視察会を開催した。具体的には、補修工事中の瀬戸大橋の見学、能登半島地震の被災橋梁視察を行った。

3) B-mapの改良

DX推進特別小委員会の活動の一環として、震災後の自主点検の効率化を目的としたシステムB-mapの改良を予定していたが、震災時の点検等は国交省のTEC-FORCEが担うようになってきており、能登半島地震においても橋建協への要請がなかったことから、B-mapの機能のうち、緊急点検対応部分の改善やマニュアル整備については、今後の協議事項とした。

4) 共同研究

国総研との共同研究「鋼橋の性能評価、回復技術の高度化に関する共同研究」、土研との共同研究「支承の損傷に関する共同研究」「異種材料を活用した鋼橋の合理的な性能回復技術の開発に関する共同研究」を引き続き行い、保全工事の環境整備とあわせて関係機関との良好な関係を

維持した。

5) 新規活動

令和6年度途中から、下記2つの活動を開始した。①保全工事において有用な長孔・拡大孔を使用したHTB接合に関する試験研究、②保全の立場からみた鋼橋の不適切なディテールに関する改善提案を行うためのWG活動。これらについては次年度以降も継続して活動する予定である。

5. 品質・環境委員会

(1) 品質・環境委員会活動について

令和6年度は、「品質月間活動」及び「品質・環境委員会セミナー」を通して人材の育成と品質・環境の向上を目指して活動を行った。令和5年度に収集した鋼橋工事で会員各社が経験した設計、製作、架設の失敗体験を、トラブル事例として取りまとめるとともに、セミナー用のパワーポイントを作成した。会員各社の品質向上・人材育成活動として、10月に会員各社にトラブル事例の配布を行い、5月に「品質・環境委員会セミナー」を開催する予定である。

品質・環境委員会セミナーの内容は以下の通りである。

1) トラブル事例の整備

技術委員会メンバーから設計・製作・架設の失敗事例を収集し、所定の様式に失敗の現象・原因・対応をまとめトラブル事例として整備した。

2) トラブル事例等のパワーポイント作成

最新のトラブル事例及びアドバイス資料等をパワーポイントで作成し、会員用のホームページへ登録した。

3) 品質・環境委員会セミナーの開催(CPDS 3ポイント付与)

以下の内容でセミナーを開催する。

【日時】令和7年5月14日(水) 13:00～

【場所】橋建協 会議室

【内容】

① トラブル事例関連

- ・ 橋建協 HP からトラブル事例集へのアクセス方法
- ・ トラブル事例(設計・製作・架設)の原因と対策

② 特別講演

テーマ:「建設分野におけるカーボンニュートラル対策」

講師: 国土交通省国土技術政策総合研究所 原野 崇 様

6. 安全委員会

令和6年度、安全委員会は、以下の重点課題を掲げ安全活動を推進した。

- ① 重篤災害・死亡事故ゼロ達成に向け具体的な行動を展開する。
- ② 安全管理水準の向上を促進する。
- ③ 発注者と共に創る安全に向けた活動を展開する。
- ④ 安全委員会は、各社共有の安全組織となる。

令和5年の安全成績が、休業4日以上労働災害は13工事・19件、そのうち墜落・転落災害が8件、また重大事故が連続発生し、死亡者は4名の、これまでにない非常に残念な結果となった。このような状況を踏まえ、今年度、安全委員会の労働災害防止に向けた啓発促進の課題は未だ道半ばであること

を痛感するとともに、改めて「仲間の命を守る」を合言葉に、会員会社が一致協力して再発防止に向けた安全管理を推進できるよう、安全委員会として安全活動を実施した。

会員会社の一致協力の結果、令和6年の安全成績は、休業4日以上の労働災害は5件、そのうち墜落災害が2件、目標とした死亡事故ゼロを達成することができた。

安全委員会の令和6年度に実施した主な活動実績を、以下に報告する。

(1) 安全委員会共通

- ・ 第28回安全責任者連絡会総会・安全研修会を開催（令和6年6月21日）。
安全研修「国土交通行政をめぐる最近の話題」国土交通省技術調査課 高見課長補佐。
橋建協研修「見守りカメラ導入と活用事例」、「安全衛生Q&A第3版の紹介」。
- ・ 安全委員会（含安全部会）メンバーを4名増員し、安全活動をより充実。
- ・ 令和6年度の橋建協重点活動テーマの中で、現場安全対策の推進（安全性の向上）として、
①橋桁落下の事故防止対策、②墜落災害撲滅に向けた取組み、③新技術の採用促進、を掲げ活動。国直轄局、道路会社との意見交換会に出席。
- ・ 安全祈願を伊勢神宮で執り行った（令和7年2月7日）。
- ・ 安全委員会表彰制度に基づき、安全推進優良職長11名を安責者総会で表彰。
- ・ 中島康夫安全顧問に、安責連総会で安全委員長から功労表彰（15年間の功績）。
- ・ 登録橋梁基幹技能者認定講習会（2回開催）に安全講師を派遣。
- ・ NEXCO3社の各支社安全協議会に参加。
- ・ 墜落災害撲滅に向けた各現場での「統一行動」の推進。
- ・ 墜落災害防止に関する吊り足場設備の安全点検の要請（安全委員長 令和7年1月28日）

(2) 安全東日本部会

- ・ 自主パトロールとして東北地整管内での稼動中現場（4橋）の一斉パトロールを実施（令和6年10月24日～11月27日）。
- ・ 中部地整管内の尾羽第1高架橋（IHIインフラシステム施工）において、発注者との合同安全パトロール、清水ナショナルTCで安全研修を実施（令和6年10月18日）。
- ・ 発生した事故災害の調査・分析および再発防止教材「わかりやすい災害資料」の作成、SD配布。災害データベースに登録。
- ・ 鋼橋建設技術者安全衛生講座（工事計画参画者コース）に安全講師を派遣。
- ・ 関東地整管内の水戸神栖線橋（駒井ハルテック施工）において、発注者との合同安全パトロール、水郷県民の森で安全研修を実施（令和7年1月30日）。
- ・ 「見守りカメラの設置」の活用推進に向けた情報収集と展開。
- ・ 高所作業車の安全性向上に向けた改善要望。関東地整合同パト時にデモ実演。

(3) 安全西日本部会

- ・ 施工中と完成写真、イラスト、安全標語を募集、選考、安責者総会で表彰。編集した安全ポスターおよび安全標語短冊を会員各社に頒布。
- ・ 安全衛生Q&Aの改訂（令和5年度版）（鋼橋架設工事において200の疑問に答える）（令和6年3月）発刊、頒布。継続して「作業者のための安全衛生Q&A」を取りまとめ。
- ・ 阪神高速道路、福北高速道路、名古屋高速道路からの要請により、安全査察員、安全管理アドバイザーを派遣。
- ・ 自主パトロールとして兵庫県発注の加古川橋（高田機工・三井住友建設鉄構エンジニア・日本橋梁

JVの施工) で実施 (令和6年12月20日)。

7. 海外事業委員会

(1) 概況

今後の市場の不確実性を解消すべく、海外市場における鋼橋の需要創出及び数年後の案件形成に向け主体的且つ積極的な活動を行った。

(2) 活動実績

- 1) 国内にて出件が見込まれている連続斜張橋に関する知見を深めるべく、フランスのミヨー橋とイギリス (スコットランド) のフォース鉄道橋・道路橋、クイーンズフェリークロッシング橋の調査を行った。 会長、専務理事以下、協会参加企業及び事務局から総勢27名の参加があり、海外事業に関する興味を深めるといった面も含め有意義な視察となった。
- 2) 昨年に引き続き海外事業委員会としての海外調査団派遣を実施し、今年度はネパールを訪問した。 大使館を訪問し大使及び国交省アタッシュェと面談、ODAによる支援方針などをヒアリングした。JICAを訪問して所長他の職員の方に対して具体的な案件についてヒアリングを行った。また現地政府とも面談し鋼橋の優位性について説明した。山岳道路の踏査、及び市内渋滞箇所への高架橋の適用についての検討などを行った。
- 3) 国交省海外プロジェクト審議官、総合政策局海外プロジェクト推進課、道路局企画課国際室との意見交換会を行った、また同意見交換会においては個社の課題についても相談する機会を設定した。
- 4) 国交省総合政策局主催によるホンジュラス大統領私設秘書官への本邦技術のプレゼンの場において海上橋・長大橋のプレゼンを行った。
- 5) 国交省及びJICAによる案件説明会について委員会にて共有をした。

IV. 特別委員会の活動報告

1. 働き方改革特別委員会

(1) 概況

2019年4月に働き方改革関連法成立後、協会は5年間の準備期間内において段階ごとに最大残業目標時間の規定を定めた「働き方改革に向けた基本方針」を策定。2023年6月には働き方改革特別委員会が設立され、発注機関への改善要望の強化や協会会員会社への啓蒙活動を展開して2024年4月からの厳格適用に至った。 その後も協会内では上期時点での残業実態調査やアンケート調査を実施。

(2) 主な活動状況

- ・働き方改革推進ポスターを作成し、会員各社に配布して店社内及び現場への掲示で関係者の意識の向上を図った。
- ・社外の働き方改革専門コンサルを講師に招聘して協会内での特別講演会を6月6日に開催。各社にはWEB同時配信として多くの関係者に残業縮減の留意事項や対策事例を発信した。
[講演名] 経営戦略としての働き方改革～採用力向上、安全性向上にもつながる～
[講演者] 株式会社 ワーク・ライフバランス 浜田取締役
- ・NEXCO3社との働き方改革意見交換が進んでいる日建連に活動状況をヒアリングして協会内活動に反映した。(4月15日、12月15日の2回)
- ・7月に会員各社に対して上期終了時点での残業及び休暇取得実績を調査し、前年度から改善傾向であることを確認した。(過去は年度末結果のみの調査であった。)

- ・上記の調査と並行して発注者への要望アンケート調査を実施して発注者との意見交換会での要望資料に反映した。
- ・10月15日に関西架設組合、10月29日に関東架設組合との意見交換会で、働き方改革推進に伴う改善要望や若手担い手の確保状況についてヒアリングを実施。手当を含めた年収の増額、遠隔地出張現地での非効率な帰省、若手入職者の減少等が課題とされた。

V. 受託業務

以下の受託業務を受託（1件）。

- ・受託先：名古屋高速道路公社
- ・受託件名：令和6年度鋼構造物設計要領及び鋼構造物標準図集改定補助業務委託
- ・受託金額：34,430,000円（消費税込み）
- ・受託期間：令和6年11月12日から令和8年9月30日まで
- ・受託内容：本業務は、鋼構造物設計基準(令和4年4月)及び道路橋示方書・同解説(平成29年11月)の内容に基づき、鋼構造物設計要領(案)(平成21年5月)及び鋼構造物標準図集(平成16年4月)を改定するための検討及び改定案の作成を行うものである。

VI. 出版物発行業務

鋼橋に関する出版物を発行し、各関係機関及び会員等への鋼橋PRを推進した。

- (1) 橋建協が発行する協会誌「虹橋88号」を発刊し、「冒頭特集：橋建設立60周年座談会」、「特集1：8にまつわる橋」等の記事を掲載した。
- (2) 「橋梁年鑑（令和6年度版）」を発行した。

VII. 登録橋梁基幹技能者講習業務

定款第4条（3）橋梁建設に関する啓発宣伝に基づき、橋梁架設現場における基幹技能者の育成を目的として、建設業法施行規則（第18号の3第2項）による国土交通省の登録を受けて、登録橋梁基幹技能者講習を実施した。講習は新規に資格を取得する者に対して「認定講習」を実施した。

- (1) 令和6年10月22日（火）～25日（金）、11月26日（火）～29日（金）の各4日間、計2回の登録橋梁基幹技能者講習「認定講習」を実施した。
- (2) 今年度の試験合格者は50名。建設業振興基金のデータベース登録者数は999名となった。（令和7年3月31日現在）

VIII. 技術開発業務

- (1) データ連携活用検討WGにおいて、昨年度の合理化鉸桁に続き、今年度は従来鉸桁の「設計情報属性ファイル」を実装し、データ連携確認テストを実施した。

IX. 「橋の相談室」業務

令和6年度の総相談件数は令和7年3月末段階で、333件（平均28件／月）あり、相談室の技術顧問が対応処理した守秘を要する個別案件およびそれに準ずるものは258件（平均22件／月）であった。258件の内訳として、相談内容は架設に関するものが最も多く24%であった。相談依頼者はコンサルタントが71%、地方自治体が11%、国交省が5%という割合であった。

表1－「橋の相談室」相談内容内訳

相談内容	件数	割合（％）
設計	50	19
製作	18	7
架設	50	19
保全	61	24
防食	20	8
床版	7	3
積算	25	10
その他	27	10
合計	258	100

X. 事務局

- (1) 令和7年新年交礼会時に協会設立60周年記念祝賀会を実施（功労者を表彰）。
- (2) 令和6年度海外調査団を派遣。
 - ・研修期間：令和6年9月16日（月）から令和6年9月23日（月）まで
 - ・研修場所：イギリス、フランス
 - ・参加人数：27名
- (3) 「3.11 伝承ロード研修」を実施。
 - ・研修期間：令和6年10月9日（水）から令和6年10月10日（木）まで
 - ・研修場所：岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市、石巻市
 - ・参加人数：24名
- (4) 令和6年度の受注量を4半期毎に集計、報告。

以上